

## データ作成処理状況について

番号	プロセス	内 容	想定されるミス	講じられていた対策
1	調査票の回収	<p>○収支の記入がないに等しく、問い合わせをしても回答が見込めそうにない調査票、調査辞退や廃業など調査対象外の調査票を除外する。</p> <p>○調査票の記入内容についてチェックを行い、薄い字、読みにくい字などの補正、文字での記入を数字に置換、合計は記入されているが、その内訳で記入がない場合に明らかに「0」とわかる箇所に「0」と記入するなど補正を行う。</p>	○別の調査票を除外する。	○除外した調査票を再度チェックしている。
2	データ入力	○ベリファイ(別人による二度打ち)でデータの入力を行う。	○誤って入力を行う。	○後続作業の疑義照会、データ精査で調査票の記入内容と入力データの確認を行っている。
3	疑義照会	<p>○チェック用プログラムにより、未記入項目、内訳と合計や同一の勘定科目の箇所など関連する項目の整合性、回答値の範囲をチェックし、疑義を洗い出し、警告メッセージを出力する。</p> <p>○警告メッセージが出力されたデータの内容について、電話又は照会票によりFAXで保険医療機関等に照会を行い、回答を調査票に記録の上、必要であれば専用ツールによりデータの修正を行う。</p>	<p>○プログラムチェックを行わない。</p> <p>○データの修正を誤る。</p>	<p>○後続作業のデータ精査で全てのデータを一括してチェック用プログラムにかけている。</p> <p>○入力結果を印刷して、入力した者とは別の者が入力結果をチェックしている。</p>

番号	プロセス	内 容	想定されるミス	講じられていた対策
4	データ精査	<p>○不整合や異常値の確認について、専用ツール及びコンサルタントの目視によりデータの精査を行う。</p> <p>○電話・FAXによる照会によっても無回答で整備できなかった項目、合計の不一致などの項目、不整合、異常値の内容を確認の上、必要に応じて修正を行う。</p> <p>○これまでのプロセスを経ても集計の必須項目が空欄となっているデータについては無効データとする。 また、電話・FAXによる照会で整備できなかった疑義や不整合や異常値のままとなっている以下のようなデータについては要検討データとし、その調査票の照会状況、修正履歴やエラー等の内容を確認の上、取扱いを厚生労働省に協議する。 ・入院診療収益がある有床診療所で、給食用材料費と委託費ともに「0」となっている。 ・常勤の給料と非常勤の給料が分けられないために給与費の合計は記入されているが、職種別の給与費は未記入となっている。 ・透析センターがあり、他の診療所と比較して収益額が非常に大きい。 ・複数の病院を運営している医療法人の税金額が記入されているが、調査対象保険医療機関等に按分することができない。</p> <p>○判別用プログラムにより以下のような無効データを判別する。 ・同一保険医療機関等データの重複 ・必須項目の欠損 ・収益合計の「0」 ・内訳の合算値と合計欄の値の不一致</p>	<p>○検出されているエラーを見落とす。</p> <p>○誤って修正を行う。</p> <p>○有効データを無効とする。</p> <p>○無効データを有効と判定する。</p> <p>○要検討データを見落とす。</p> <p>○判別用プログラムによるチェックを行わない。</p>	<p>○データ精査中は何回でも専用ツールを通し、エラー箇所を再チェックしている。 ○修正データを入力した者とは別の者が、修正内容を確認している。</p> <p>○無効と判定した者とは別の者が内容を確認した上で、プロジェクトリーダーが確認を行っている。</p> <p>○後続作業の判別用プログラムを実行することで無効データを判別している。 ○複数の者が要検討データを選出した結果を突合する。また、後続作業でチェック用プログラムにより重大なエラーが残っていないか確認を行っている。</p> <p>○後続作業の集計の際、確認者が立ち会って判別用プログラムの実行後に集計されていることを確認している。</p>
5	データ集計	<p>○無効データを集計対象外とし、集計用プログラムにより集計を行う。</p>	<p>○プログラムミスにより集計を誤る。</p>	<p>○エクセルにより手集計を行い、プログラムによる集計結果と一致するか確認を行っている。</p>